

くさのクローバー新聞

こどもは熱中症にかかりやすい！



熱中症は、暑い日だけではなく、湿度の高い時期も起きやすく、梅雨明けの暑い日が特に注意が必要になります。こどもは周囲の温度の影響を受けやすく、脱水にもなりやすく、おとなより背が低く地表の熱の影響を受けやすいため、熱中症にかかりやすいです。
また、小さい子どもでは症状をうまく伝えることができないため、周囲の大人が注意する必要があります。

熱中症の症状と対処法

Ⅲ度 (重症)	Ⅱ度 (中等症)	Ⅰ度 (軽症)	分類
意識障害 けいれん 異常な高体温 異常な発汗 汗が出なくなる 血液検査異常	頭痛 吐き気 嘔吐 だるさ 疲れ	めまい たちくらみ 筋肉痛 足がつる こむら返り 汗をたくさんかく 手足のしびれ 気分不良	症状
	意識障害はない 発汗あり 体温は平熱～40℃未満	意識障害はない 体温はあまり上がらない	一般的な特徴
救急車を呼ぶ！ 入院加療が必要 救急車を待つ間にも 応急処置を行う	車ですぐに受診	からだを冷やす 水分補給	対処法

応急処置のポイント

- ・涼しい場所に移動し、あおむけに寝かせる
- ・冷房がきいた室内など、涼しい場所に移動し、あおむけに寝かせます。
- ・からだを冷やす
- ・服をゆるめ、濡れタオルや保冷剤をくるませたタオルで首やわきの下、太もものつけ根など（太い血管が通っているところ）を冷やします。濡れタオルで体を拭いたり、全身に水をかけたりした後で、うちわであおいだり、扇風機にあてたりすることで、体を冷やします。
- ・水分（経口補水液）をとらせる
- ・脱水の治療として経口補水液をとらせます。経口補水液がない場合は、水と塩をとらせるようにします。残念ながらスポーツドリンクは塩分が少ないため、熱中症の治療としては不向きです

まずは、涼しい場所に寝かせて、経口補水液を飲ませましょう。
応急処置をしても回復しない場合や、様子がおかしい場合は、救急車を呼びか、いそいで病院を受診するようにしましょう。

スタッフ紹介

はじめまして。昨年12月から医療補助として勤務させてもらっています樋口智巴瑠です。
好きな食べ物はハンバーグです。
(鳥栖のフレンズというお店がすごく美味しいですよ～)
趣味はゲームです。どうぶつの森やPUBGをします。
入社して6ヶ月もっというろんな仕事ができるように頑張ります!!

